

文化

沈黙にもささぐり 沖繩戦聞き取り47年

石原 昌家

〈92〉

本連載では前回、2001年に沖縄県平和祈念資料館と平和の礎の間の導線路のそばに巨大兵器の展示作業中であることを報道されたことを紹介した。それだけではなく、靖国神社の兵器展示と同様の方法で沖縄各地に巨大兵器展示が出現していたことも伝えた。

基地と戦跡めぐりの「平和ガイド」が盛んな中、日



県平和祈念資料館前に展示されていた「旧日本軍陸軍魚雷」。平和の礎の周辺にあり、当初は説明版前に沖縄の守護神シーリ―も掲げられていた＝2001年1月22日、糸満市

に見える形で軍国化の波が押し寄せていることは、容易ならぬ状況がこの沖縄をも包み込み始めていることを痛感した。

何となく、軍事礼賛のよすがな巨大兵器展示物を撤去させない、平和の礎と平和祈念資料館の設立理念が破壊されたまま、という状況になる。戦争を二度と起さずにはいけないという

「保守陣営・松本勝利賞、法政評論社」に、「追補・新たな展示問題」を追加することができたことだ。この書籍は、本連載の沖縄県平和祈念資料館問題の全容を4人で詳述してきたが、執筆をほぼ終えた段階で「第二の展示改ざん」問題が発生したので追補することになった。

同書では、本連載の前回

さらに「国民の世論や専門家の意見を排除し、密室において行政主導で済ませられる資料館展示がいかに歴史の真実をゆがめていくか」ということを本書でくわしく警告してきたつもりだが、今回の野外兵器展示という新たな出来事はまさにわれわれの懸念が的中したことを生々しく物語るものといえよう。新平和祈念資料館問題の展示問題はまだまだ進行中の「争点」なのである。(339)

「資料館」内部や回廊に備え付けられたイスに腰がさえさり、理念を破壊しただけでなく物理的にも「平和の礎」と分断している。この犯罪行為ともいえるべき「第二の展示改ざん事件」は、心ある人たちが弾いて行かねばならない(同書、177頁)と、私たちは全国の読者に呼びかけた。それでも撤去の様子が見えなかった。

3回目は、カラー写真

「強制集団死」にかじき切り、加速させていく上で最も注目すべき国策は、「日米防衛協力のための指針」という「日米カイライン」のようだ。第1次は、1978年10月に決定し、以後「有事法制」制定の動きが活発化した。第2次が99年5月に「新しい日米防衛協力のための指針」(新ガイドライン)により周辺事態措置法が成立し、2002年12月に海上自衛艦のインド洋派遣「集団自決」ということばの使用は欠かせないと考えているようだ(詳細は後述)。

とかじき切り、加速させていく上で最も注目すべき国策は、「日米防衛協力のための指針」という「日米カイライン」のようだ。第1次は、1978年10月に決定し、以後「有事法制」制定の動きが活発化した。第2次が99年5月に「新しい日米防衛協力のための指針」(新ガイドライン)により周辺事態措置法が成立し、2002年12月に海上自衛艦のインド洋派遣「集団自決」ということばの使用は欠かせないと考えているようだ(詳細は後述)。

99年、軍事化の分岐点

戦争でできる国へかじ切る

平和祈念資料館問題②

強い思いで全戦没者の刻銘作業に全力を注いだ多くの人たちの労苦を知るものと、これを沖縄県当局が撤去するまで、非難し告発することにした。その方法は、全国で販売される書籍を通して展開することだった。

(9月22日付の第91回)で記述したことに加えて「魚雷の展示場所は資料館のロビー」と「平和の礎」広場の間の大きな空欄を占めており、「礎」と「資料館」は一体であるというコンセプトをぶち壊している。

2回目は、05年9月に出版した『オキナワを平和学する』(石原昌家、仲地博、C・タケラズ・ラミス、法律文化社)のコラム「平和の礎」というタイトルで、回

目を掲載し、2系にわたって、他地域の大型展示とともに大々的に問題視した。06年8月に発刊した『DV Dブック Peace AR chive's オキナワ沖縄戦と米軍基地から平和を考える』(石原昌家編、新

2000年前後から急速に軍事化日本・沖縄へかじを切ったような状況が目に見える形で現れたのが、資料館問題を連載しているところだ。1999年が軍事化へ向かう日本の分岐点だった。本連載の第73回(20年12月3日付)で、ひとつの法案を導き出す法律を「小沢内閣が矢張り強行採決している」と、

同6月には自衛隊がイラク戦争で多国軍に参加している。06年5月には、日米の安全保障協議委員会が、在日米軍再編が合意された。15年4月に第3次「日米ガイドライン」、16年防衛協力のための指針が合意されるや、7月には、集団的自衛権行使を可能にする安保関連法案、9月に

「兵器展示を告発」最初は、兵器展示から1年後の2002年3月に発刊した『争点・沖縄戦の記憶』(石原昌家・大城博保ら)に掲載した写真と

「資料館」内部や回廊に備え付けられたイスに腰がさえさり、理念を破壊しただけでなく物理的にも「平和の礎」と分断している。この犯罪行為ともいえるべき「第二の展示改ざん事件」は、心ある人たちが弾いて行かねばならない(同書、177頁)と、私たちは全国の読者に呼びかけた。それでも撤去の様子が見えなかった。

「資料館」内部や回廊に備え付けられたイスに腰がさえさり、理念を破壊しただけでなく物理的にも「平和の礎」と分断している。この犯罪行為ともいえるべき「第二の展示改ざん事件」は、心ある人たちが弾いて行かねばならない(同書、177頁)と、私たちは全国の読者に呼びかけた。それでも撤去の様子が見えなかった。

「資料館」内部や回廊に備え付けられたイスに腰がさえさり、理念を破壊しただけでなく物理的にも「平和の礎」と分断している。この犯罪行為ともいえるべき「第二の展示改ざん事件」は、心ある人たちが弾いて行かねばならない(同書、177頁)と、私たちは全国の読者に呼びかけた。それでも撤去の様子が見えなかった。

「資料館」内部や回廊に備え付けられたイスに腰がさえさり、理念を破壊しただけでなく物理的にも「平和の礎」と分断している。この犯罪行為ともいえるべき「第二の展示改ざん事件」は、心ある人たちが弾いて行かねばならない(同書、177頁)と、私たちは全国の読者に呼びかけた。それでも撤去の様子が見えなかった。

「資料館」内部や回廊に備え付けられたイスに腰がさえさり、理念を破壊しただけでなく物理的にも「平和の礎」と分断している。この犯罪行為ともいえるべき「第二の展示改ざん事件」は、心ある人たちが弾いて行かねばならない(同書、177頁)と、私たちは全国の読者に呼びかけた。それでも撤去の様子が見えなかった。